

～埋蔵文化財発掘ミュージアム～

## →古代の貴重品・硯を発見！

博多区博多駅南

ひえ  
比恵遺跡群

あすか  
比恵遺跡群で、飛鳥時代

(7世紀ごろ)の硯を発見しまし

た。これは「獸脚円面硯」と呼ばれる

直径20cmほどの陶製の丸い硯の一部で、

細やかな文様や、硯を支える脚などの装

飾が施されています。

硯の全体予想図



当時、硯を使う＝

文字を書くことができた

のは役人や僧侶など限

られた人たちでした。硯

の発見は、この地に古代の役所のような施設が

あった可能性を示す貴重な手がかりなのです。

今回発見した  
硯の脚部



## →奈良時代の儀式!?壺を埋めた理由

博多区麦野

むぎの  
麦野A遺跡

麦野A遺跡では、奈良時代(約1300年

前)の穴から3点の「長頸壺」という壺がほぼ

完全な形で発見されました。その名前のとお

り頸の長い、青灰色をした硬質の土器の

壺で、本来は酒などを入れるものです。

同時期の大宰府政庁(太宰府市)

の中門にも長頸壺が埋められてお

り、これは地鎮の祈願のためと考

えられています。麦野A遺跡

の壺も何らかの祈りを込

めて埋められたので

しょう。



発見時の状況

※いずれの発掘調査も終了し、遺跡はすでに埋め戻されています。

## →7月のイベント情報

7月

1～15日 博多祇園山笠行事

(国指定無形民俗文化財)

9日 田島神楽(市指定無形民俗文化財)

16・17日 元岡祇園ばやし・元岡獅子舞  
(ともに市指定無形民俗文化財)

23日 埋蔵文化財センター考古学講座 第3回  
「弥生絵画の世界」  
講師：深澤芳樹氏(天理大学)

### もとおかぎおん ししまい 元岡祇園ばやし・元岡獅子舞

やさかじんじゃ  
毎年7月中旬に行われる元岡八坂神社(西区元岡)の祇園祭の中で披露されます。祇園ばやしは三味線・笛・太鼓を地域の大人や子どもたちが演奏します。獅子舞は、獅子のほかに猿

や鉄砲撃ちが登場する喜劇的な芸能です。古くから地域に伝承される身近な民俗芸能に皆さんも

ぜひ触れてみてください。



大人も子どもと一緒に楽しむ行事です

## 福岡市

### 経済観光文化局文化財部

住所：福岡市中央区天神1-8-1

TEL：092-711-4666 FAX：092-733-5537

文化財の保存・管理・整備・活用に関すること

文化財保護課 TEL：092-711-4666

福岡城跡と鴻臚館跡に関すること

大規模史跡整備推進課 TEL：092-711-4784

埋蔵文化財の発掘調査・手続きに関すること

埋蔵文化財課 TEL：092-711-4667

埋蔵文化財センターに関すること

埋蔵文化財センター TEL：092-571-2921

ホームページ 福岡市の文化財

<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>



# 歴史の風 ふくおか文化財だより

Vol.3 2016年6月

## →福岡城の地震への備え ～発掘でわかった石垣内部～

4月の熊本地震では福岡市中央区でも震度4を観測しました。発生直後に福岡城内の巡回を行いました。地震による被害はありませんでした。

今回の地震で改めて注目されるのが、平成25年に福岡城

上之橋御門石垣の解体調査で発見された石垣内部の「石

列」です。石垣の表面

の巨大な石の背後には「裏込石」と呼ばれる直

径10～20cm前後の石

が詰められています。裏

込石は主に雨水を排水

する働きがあり、これまで

は無造作に詰められたと

考えられていました。

しかしこの調査で、石垣表面と直交方向に直径40～50cm

前後の石を並べた「石列」をつくり、その間に裏込石を詰めると

いう工法で石垣がつけられたことが分かったのです。これは地震

の際、裏込石全体で揺れを吸収し和らげる「耐震構造」だった

と思われる。平成17年の福岡県西方沖地震や今回の地震で福岡城の石垣に大きな被害がなかったのは、このような

見えない地震への備えのおかげだったのかもしれない。



石垣内部の拡大写真

小さな裏込石の間に、並行して並ぶ大きめの「石列」が見えます。このようなつくりは全国初の発見です。

## →雨の日は地下街で遺跡探し？

～ここにも遺跡！～

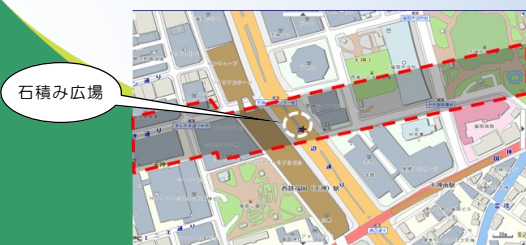
雨の多いこの季節…地下街を歩くことも多いのではないのでしょうか。そんな時は天神地下街で遺跡探しをしてみませんか？

方法は簡単。地下街の壁に注目して歩いてみてください。突然、壁が石垣風になっている

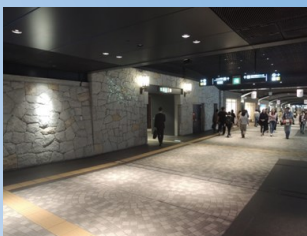
場所があります。長さにして約50m。7・8番街付近の「石積み広場」と呼ばれるこのエリアには、福岡城の堀がかつて存在していました。

福岡城の堀は、舞鶴公園・大濠公園にその姿を残すのみとなっていますが、江戸時代には福岡城から現在の市役所の南側を通り、那珂川に向かって伸びる堀がありました。現在の中央区の西通りあたりから東側は、肥前藩（現在の佐賀県にあった藩。藩主は鍋島氏）の協力のもと造られたことから「肥前堀」と呼ばれています。

もし、石垣があったならどんな風景だったのでしょうか…？お買い物や雨宿りの際、福岡の昔に思いを馳せてみると、いつもの景色も違って見えるかもしれませんね。



天神地下街周辺の肥前堀の範囲



天神地下街の石積み広場

## →埋蔵文化財センターだより

### 考古学講座に参加してみませんか

現在、福岡市埋蔵文化財センターでは「考古学講座」を開催しています。



たまちゃん コウコ しかさん

今年度の考古学講座のテーマは「絵画と造形」。年8回の講座で、旧石器時代から近世まで、さまざまな物に描かれた絵や土偶・埴輪・人形などといった造形物を取り上げます。研究の第一線で活躍する講師が、福岡市の発掘調査の成果をふまえながら解説します。

那珂第23次調査で出土した弥生土器に描かれた鳥

今回は7月23日(土)

午後1時半から、深澤

芳樹氏（天理大学客

員教授）が、土器など

に描かれた弥生時代の

絵画について講義を行

います。入場無料、申

込みは不要です。7月以降の予定は、埋蔵文化財センター

のホームページをご覧ください。

### 義援金箱を設置しました

平成28年熊本地震への義援金箱（壺）を受付に設置しています。本物の弥生土器ですので、どうぞ直に触れていただき、募金にご協力ください。

詳しくは福岡市埋蔵文化財センターのホームページをご覧ください。

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/maibun/html/>



## →西区にあらたな古墳公園

### 今宿古墳群・山ノ鼻1号墳を整備しました

山ノ鼻1号墳（西区女原北）は、古墳時代（4世紀）に造られた、長さ約37mの前方後円墳です。JR筑肥線「九大学研都市駅」や「さいとぴあ（福岡市西部地域交流センター）」のすぐ南側にあります。

平成27年度に古墳周辺の整備を行い、現在古墳公園としてオープンしています。古墳の上には新たに盛土を行って保護し、盛土のすそにめぐらした縁石で古墳本来の形を表現しました。盛土の上には説明板を置いています。

今宿・周船寺地域の一帯には多くの前方後円墳があり、今宿古墳群として国の史跡に指定されています。山ノ鼻1号墳の周辺にも、大塚古墳、若八幡宮古墳、丸隈山古墳といった古墳があります。「福岡市の文化財」ホームページでは散策コースを紹介していますので（「文化財を見に行こう」→「福岡文化財めぐり」→「12. 福岡の古墳時代」）、周辺をめぐってみたいはいかがでしょうか。



整備が完了した山ノ鼻1号墳。鍵穴のような形が特徴的な前方後円墳です。